

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100255	事業の開始年月日	平成26年11月1日	
		指定年月日	平成26年11月1日	
法人名	株式会社 ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター 川崎御幸			
所在地	(〒212-0051) 神奈川県 川崎市 幸区 東古市場 22番地			
サービス種別 定員等	■ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	12名	
		通い定員	6名	
定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	5名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	H27年11月11日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月22日	
定員等	ユニット数		2ユニット	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1F＝小規模多機能型居宅介護 2F・3F＝認知症対応型共同生活介護の複合型施設として、2014年11月1日に開所。開所から1年経過したが、未だ満足はいく地域交流ができていない為、地域における知名度は高いとはいえない。現在、小規模多機能の登録者数は微々足るものだが、グループホームに関しては満室で、常時待機者が数名いる状態。地域にとっての介護の重要性を実感しているので、今後は積極的に地域との交流に力を入れたいと考えている。天候や入居者様の体調面で問題が無ければ毎日向かいの御幸公園や、ファミリーマートなどに散歩や買い物で外出しています。行事にも力を入れており誕生日会を中心に、季節毎の行事はご家族様もお招きして、盛大に開催しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年11月27日	評価機関 評価決定日	平成28年3月4日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
この事業所はJR川崎駅より約9分の「東古市場」バス停より徒歩3分で表通りから少し中に入った住宅地に位置する。事業所の向かいに御幸公園がある。建物は鉄骨造3階建てで2階、3階が当事業所で、1階は同一法人の小規模多機能型居宅介護の複合型施設である。

**【日常的な外出支援】**  
安全、安心、安楽の3つをモットーに、毎日散歩を主とした外出支援をしている。御幸公園は国道1号線と多摩川河川敷に面した約3万㎡の公園で天気が良ければ利用者は毎日、朝・夕、散歩に出かけている。近隣のコンビニへおやつを買いに、近くの洋服店に衣料品を求めに外出している。訪問日には職員と利用者が複数組散歩に出ていた。施設内見学の際は利用者が管理者と一緒に階段を登り、ユニットを案内してくれた。

**【ゆとりを持った生活リズムから笑顔が】**  
職員は利用者の明るい笑顔が見ることができるよう、おやつを一緒に作るなど利用者の身体機能の可能性を大切にケアを実践している。朝食は利用者の生活リズムに合わせて、食べたい時間に食べるように支援している。また、入浴を好まない方には、家族と一緒に入浴してもらうように家族に働きかけている。利用者の「すみませんね」、「あなたに会いたいから」の一言が職員のモチベーションアップに繋がっている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイケアセンター川崎御幸 ニチイのほほえみ
ユニット名	ひだまり

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター川崎御幸 ニチイのほほえみ
ユニット名	ぬくもり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社内に、(株)ニチイ学館の経営理念や、全国のニチイのほほえみの共通リネンはあるが、ニチイケアセンター川崎御幸としての独自のリネンを作成し、リネンに即した介護を実践している。	事業所理念は開設時にスタッフ全員で作成した。理念は事務所の扉やキッチン脇の壁に掲示している。ユニット会議や全体会議で唱和して共有するほか、理念の中にある「安全・安心・安楽」についてはケアマネジャーから説明している。職員は利用者の笑顔が見られるよう、おやつを作るなど利用者の身体機能の可能性を大切にケアを心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括を通して、町内会長とコンタクトを取っているものの、双方のスケジュールの都合がつかず、まだ深い付き合いはできていない。なるべく早期に交流を深めたいと考えている。	町内会には加入していないが、同じ町内に住んでいる職員から地域情報を得ている。散歩の際には、地域の人たちから話しかけられ交流している。地域祭りの神輿が立ち寄ってくれる。12月24日にクリスマス&ニチイ祭りを開催予定である。12月の民生委員との会議に参加する予定である。	今後は地域包括支援センターをはじめ、民生委員、町内会などの協力を得て地域との交流に力を入れ、ボランティアの受け入れなどを実現することが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は未達成。今後、地域包括や町内会等と連携し、発信していきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関しては、開所から適宜2ヶ月ごとに開催しているが、地域との連携が途上なので、強化していきたい。	2ヶ月に1回小規模多機能と合同で開催し、家族代表、他法人デイサービス管理者、地域包括支援センター職員が参加している。事業所の行事予定、活動状況報告を行っている。出席家族からボランティア受け入れなどの事業所運営について質問があり回答している。	運営推進会議のメンバーに自治会や民生委員、行政などの多彩なメンバーの参加をいただき、助言をもらうなどして、途上にある地域との連携を強化することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状はまだ、満足できるほどの関係性はないので、関係各位との連携を強化できるよう、地域への働きかけに力を入れたい。	区役所高齢・障害課には運営推進会議の報告書提出のほか、更新申請などを通して連携している。地域包括支援センターには運営推進会議出席や困難事例の相談に乗ってもらっている。市の研修会案内をもらっている。管理者は今後地域への働きかけを強め地域ケアシステムの構築を図る考えである。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部徘徊や事故防止の観点から2階と3階の出入り口や窓は施錠を施しているが、1Fに関しては自由に出入りできるようにしている。入居者様の意向があれば、フロアは自由に行き来ができる。	玄関は施錠していない。各ユニット入口は安全上施錠しているが、利用者がユニットから出たい意向の際は開錠して、見守り同行し、建物内は自由に行き来できるようにしている。「ちょっと待つて」などのスピーチロックについては職員に個人的に注意している。入院先で向精神薬を多量に服薬していた方には協力医と相談して段階的に減薬した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当社のマニュアルを用いて指導を行い、身体拘束や虐待防止に努めている。日常生活の中で「ちょっと待って」と言ってしまう事、繰り返しの要求を聞き流すような行為も虐待にあたると指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員は契約等には直接は関わっていないため、学ぶ機会がない。現状は、管理者・ケアマネージャーが必要なことは勉強し、必要な情報を現場に落とし込み、情報を共有するよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約やアセスメントの際に、必要事項の説明や質疑応答をおこなっている。契約締結後も、疑問があれば随時相談にのっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	割りと家族の面会の頻度が高く、御意見を頂ける機会が多い。また本人様からも意見を頂く機会が多いので、都度参考にし、改善すべき点は改善するよう心がけている。	面会に来た家族から話を聞き、気持ちを受け止めるようにしている。家族会は4月と8月に開催した。家族から職員の異動や派遣社員が多いとの意見や質問があり、回答している。同性介助での入浴や買い物に行きたいなどの要望があり、サービスを見直した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務ミーティングにて運営方針の説明や、質疑応答をおこなっている。 また、業務時間外にも飲み会等で意見を聞いている。	随時のフロアミーティングや業務ミーティング、月1回の全体ミーティングで職員の意見を聞いている。全体ミーティングでは外部の薬剤師やマッサージ師などを招いて勉強会を開き、ケアの共有化を図っている。管理者は職員が意見を言いやすい場を作るために時間外に会食をするなど、意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状、直接雇用の職員が少なく、派遣職員を雇用している。職員不足に伴い残業を余儀なくされているが、現場では各自のモチベーションを落とさぬよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場では外部からの研修の案内を職員に周知するよう努力している。社内的にはキャリアアップ制度を用いて給与アップの取組はあるものの、OJTの機会は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	拠点独自の取組として、支店に伺いを立てた後、市内の同業者の連絡会に参加し情報収集や情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、御本人が不安無く過ごせるようケアプランを作成し、プランを基に支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、入居後は適宜連携を取りながら2人3脚で介護を行う事を念頭においている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、日々の様子を見ながら、必要に応じて、適宜ケアプランの内容を変更しながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペースに併せて、無理強いせずに様子を見ながら、他の方との交流を図っている。違うフロアの入居者、利用者とも交流している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、様子を見ながら、面会時や家族会の際に意見交換を行っている。施設、家族、本人様での二人三脚での介護を念頭に置いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご本人様からの謝絶の要望がある場合を除き、基本的な面会の制限は無く、外出、外泊などの要望にも、事前の連絡を頂いた上で応えている。	自宅で生活していた時の友人や、利用者が教師をしていた時の友人の訪問がある。その場合には居室やリビングを案内したり、外出を勧めたりして継続的な交流ができるように支援している。自宅で生活していた際の家具などを持ち込んでもらうようにしている。墓参りや葬儀などの外出は家族に協力してもらうよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理強いをしないよう心がけながら、入居者様同士のかかわりを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談に乗ったり、可能な範囲での情報提供や、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	安心・安全・安楽を念頭に置き、本人の意向を尊重している。自分で発言が困難な方の場合には、その方の立場になって考えるようにしている。	利用者のニーズを的確にとらえるよう努めている。利用者の食事の様子を観察して、食事量や硬さなど本人の好みを確認している。意向の把握が困難な利用者については、ジェスチャーで伝えて、得られた情報は管理者から職員に伝えたり、申し送りや連絡ノートで職員間で情報共有している。利用者とは接する際には、後ろから声をかけたりすることはせず、目を見て聞くようにと職員に伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時の情報やセンサー方式を用いて支援経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察しながら、気付いたことがあれば記録に落とし込み、職員間で情報共有を行うと共に、現有能力によってできる事はご自身で、難しいことは介助にて対応するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の来訪時に近況報告や意見交換を行ってからプランの見直しをしている。遠方で足の遠い家族の方に関しても電話にて報告、相談を行っている。	自宅などを訪問してアセスメントを行った後に職員が参加して、入居判定会議を行う。その後、「日常生活支援ノート」を作成して支援内容を明確にし、介護計画を作成している。介護計画はフロアミーティングなどで実施状況を確認し、モニタリングシートを作成している。来訪できない家族には電話で報告したり話し合いを行っている。	個人ファイルに入った介護計画の共有や記録の重要性を再度周知し、全職員が共有することが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の必要性に関しては職員に説明をしているが、現状は残念ながら記載がら抜けている場合もある。記録の重要性を再度周知し、報告・連絡・相談を徹底する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心・安全・安楽を念頭に置き、入居者様に危険の無い範囲内であれば、既成概念にとらわれることなく新しいことにチャレンジするように職員には周知している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携は不十分だが、各ご家族・身元引受人様とはきちんと連携し、入居者様ひとりひとりが安心・安全・安楽に生活できるようサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、提携医の幸クリニックの往診を受けている。容態急変時は幸クリニックの地域医療部に連絡し臨時に往診してもらっている。	利用者全員が月2回協力医の往診を利用している。受診結果は往診記録や申し送りノートで情報共有している。月4回、歯科医の訪問がある。調剤薬局の薬剤師の訪問があり利用者個々の薬を管理している。眼科などの専門医は家族が対応している。医療連携加算を算定していないが協力医の訪問看護室を通して協力医への24時間連絡体制はある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の訪問看護室や、当事業所の看護師ときちんと連絡・報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	H26年11月の開所日から現在まで、特に大きな入院は無いが、容態急変時は、幸クリニックを通して、幸病院に通院や救急搬送を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ニチイ学館としては看取りの規定が無いため、看取りは行っていないが、拠点内においては家族や医療機関と連携し、なるべく家族の希望に添える方向で対応をしている。	現在、看取りは行っていないが、職員には会議の中でエンゼルケアや終末期の対応について説明している。重度化した場合の対応についての指針や意思確認書はない。	看取りや重度化した場合における事業所の対応指針を定め、契約時に利用者・家族に説明し、同意を得ることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内に救急救命マニュアルはあるが、現状は管理者と介護支援専門員以外は実戦経験が乏しい為、職員だけでは厳しい。救命救急の講習などを通し、職員が対応できるよう育成していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応に関しても、マニュアルはあるものの、急変時同様に経験が乏しい為、今後、地域との連携を深めるとともに、職員の育成に努め、適宜訓練も行う。	災害対策予防・防災マニュアルがある。3月20日に、消火、通報訓練や夜間想定訓練を実施したが、9月の訓練は未実施である。火災報知器、スプリンクラー、防火扉、消火器が設置されている。災害備蓄品を本社に依頼しているが、未着の状況である。	非常用食料・飲料水、カセットコンロなどの備蓄品を3日分程度保有し、備蓄チェックリストで管理することが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳と自立を守り、プライバシーに配慮した声かけが行えるように努力している。	利用者一人ひとりの尊厳を守り、その人に合わせた対応や声かけを行っている。不適切な対応があった際は、その場で注意し、正しい対応を指導している。幼児言葉を避け、名前か名字で呼ぶようにしている。大声で「トイレに行こう」と言わないように職員に伝えている。個人情報に係わる重要書類は、事務所の書庫に保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心・安全・安楽を念頭に、入居者様本位の生活を営めるように適宜努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の強制ではなく、入居者様自身の意思決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容の利用や、入居者様それぞれの好みに応じた対応を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、献立に関しては食材業者を利用している為、入居者様と一緒に考えることはできないが、可能な範囲のお手伝いを促し、楽しむ努力をしている。	外部委託業者が作成した献立で食材が配達され、職員が利用者の状態に合わせて調理している。利用者にアレルギーなどがあり、食べられない食材は、代替えの食材を依頼している。敬老会で寿司の出前を取ったり、誕生日にはケーキで祝っている。職員は一緒に食事はとらないが、見守りや必要に応じた声かけなどの介助を行っていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者で栄養バランス等の計算をしている。拠点では水分量を把握し、少ない方には促しを強化したり、嚥下機能の低下している方にはトロミの使用や、必要に応じて介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時に口腔ケアの誘導を行っている。毎週（月に4回）木曜日に訪問歯科の往診があり、希望者は診察をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一応の排泄誘導の時間の目安を決めているが、基本的には入居者それぞれの排泄リズムを把握し、時間ではなく入居者様のリズムに合わせた誘導を行っている。	排泄介助が必要な方には個々の排泄時間やリズムを把握し、トイレに誘導している。トイレでの排泄を大切にしており、要介護5のテープ式オムツの方もトイレで排泄できるよう支援している。トイレはユニットごとに3ヶ所あり、扉に大きな字で分かりやすく表示している。夜間も昼間同様にオムツを使用せずにトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	提携医と連携しながら日々の排泄の確認を行い、便秘になり易い方には水分補給や適度な運動促し等の取組をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日いつでも入れる用意はしているが、9名様に週2回以上入浴していただくには最低3名×3日必要なので、1日3人の目標は設定している。ただし、強制ではなく、快く入っていただけるよう工夫をしている。	週2回の日中に対応しているが、一番風呂や夕方の希望にも応じている。身体機能が低下した方にはシャワー浴や足浴で対応している。入浴を好まない方には、家族と一緒に入浴してもらっている。脱衣室、浴室にはエアコンを設置してヒートショック防止対策をしている。入浴剤、菖蒲湯やゆず湯で季節を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が見られる方には適宜時間を見ながら休んでいただいている。夜間に関しては就寝・起床の目安を設定しているが、強制せず個々のタイミングで様子を見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師が立会い、薬の管理をしている。何かあれば提携医と薬剤師に相談している。服薬時は職員のダブルチェックを徹底するよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制をしない範囲で入居者同士の関わりをサポートしたり、孤独が好きの方に関しても放って置くことなく関わりを持つよう取り組んでいる。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日散歩外出をするよう徹底している。近隣の買い物時や、集団外出が苦手な方は個別対応など、強制ではなく、皆様が進んで外に出ていただけるよう取り組んでいる。	天気が良い日は、事業所の向かいの御幸公園に朝と夕方に出かけている。車イスの方も散歩に出かけている。近隣のコンビニへ好みのおやつを買いに行ったり、洋服屋に衣料品を買いに外出したりしている。調査時に複数のグループが楽しそうに散歩に出ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には防犯上の観点からお小遣い金1万円を事務所金庫にてお預かりし、必要な物があれば買い物時にお渡ししています。自己管理ができ、家族が了承している方は自己責任にて管理し買い物等に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話をしないように厳重注意を受けている方は職員が対応しているが、そうでない方は自由に電話を使用させていただいている。手紙を書ける方は本人に記載していただき職員が郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースを心地よく使用していただけるよう、華美な飾り付けや、移動の妨げになるような物は置かないようにしている。居室内は、なじみの品を持ち寄っていただいたり、好きなようにしている。	リビングは床暖房で、清潔な広い共用空間となっている。手作りのカレンダーや行事写真が飾られている。空気清浄機兼加湿器が設置され湿度に配慮されている。トイレから脱衣室、浴室に入ることができるため失禁時に速やかに対応することができる。1階には庭があり、家族が近所の花屋から花を購入して植えたり、草取りをしてくれる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにおいては、あらゆる危険に配慮し、見守りの中、各入居者様の好きなように過ごしてもらっている。また、各フロアは自由に行き来していただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室において、適宜の安否確認以外は極力プライベートに配慮し、余計な干渉はしないように心がけている。	居室にはエアコン、防災カーテン、照明器具、クローゼットが備え付けられている。利用者は自宅から使い慣れたベッド、テーブル、椅子、テレビ、タンス、仏壇、冷蔵庫などを持ち込んでいる。居室前の入口には、職員が刺繍をした手作りのネームプレートが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が軽度で、分別のつく方には家族了承の基、建物内はある程度自由に行き来していただいています。すぐに分からなくなる方にも分かり易いように環境を整備している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター川崎御幸

作成日 H28年 3月15日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	○事業所と地域との付き合い  現在、地域との関わりが不十分だと実感している。	地域、近隣住民等と密接な関係を持つ。	地元にて在籍する職員を中心に、地域のネットワークを生かして、地域に働きかけをしていく。近隣町内会4町の各会長を中心に民生委員や地域包括との繋がりを強化する。	3ヶ月以内
2	4	○運営推進会議を活かした取組み。 NC川崎御幸として、1F小規模多機能、2F/3Fグループホーム合同で適宜開催しているが、開催内容が運営に活かされているか疑問がある。と指摘有り。	活動状況報告を基に、地域と連携して新たな活動に挑戦していく。	運営推進会議のメンバーの見直しをおこなう。自治会、民生委員、行政職員等、地域の有権者と連携を強化していく。	3ヶ月以内
3	26	○チームで作る介護計画とモニタリング  介護計画に即した介護サービスの提供において、職員個々の動きにバラつきがあると指摘有り。	介護職員全員が入居者各位のアセスメントの内容を把握し、介護に活かす。	ケアカンファレンスを開催し、決まった内容を落とし込む際に、誰が見ても分かり易いようにまとめる工夫をする。	1ヶ月以内
4	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援。  現在、等拠点において看取りを行っていないが、来たる日に備え、看取り時の対応を周知しておく必要がある。	終末期を迎える入居者様の看取り対応を、家族、医療機関等と連携し、行う事ができる。	家族や医師と連携し、終末期や重度化した際の対応指針を定める。現場職員に関しては、適宜研修を実施する。	1年以内
5	35	○災害対策  非常食や防災セットの備蓄が無い。チェックリストを作り管理する事が望ましい。と指摘有り。	災害マニュアルを基に、災害時の訓練を適宜開催し、災害発生時、適切な対応ができるように備える。	外部評価時、申請中で未納の状態だったが、その後納品完了済み。	1ヶ月以内 (対応完了)

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。